

大青工業株式会社安定型処分場の維持管理状況等について

令和元年11月8日

大青工業株式会社

1. 既存施設について

- ・ 令和元年5月20日報告書参照
- ・ 令和元年8月8日報告書（補足）参照
- ・ 令和元年11月6日報告書（2019年10月）参照

※既存施設について講じた対策は、今後も継続して実施する予定です。

2. 平成30年拡張部について

- ・ 令和元年5月20日報告書参照
- ・ 令和元年8月8日報告書（補足）参照
- ・ 令和元年11月6日報告書（2019年10月）参照

3. 今回の拡張計画について

- ・ 令和元年5月20日報告書参照
- ・ 令和元年11月6日報告書（2019年10月）参照

仙台市環境局
 廃棄物事業部事業ごみ減量課 御中

大青工業株式会社

最終処分場の維持管理状況等報告

1. 最終処分場の施設状況について

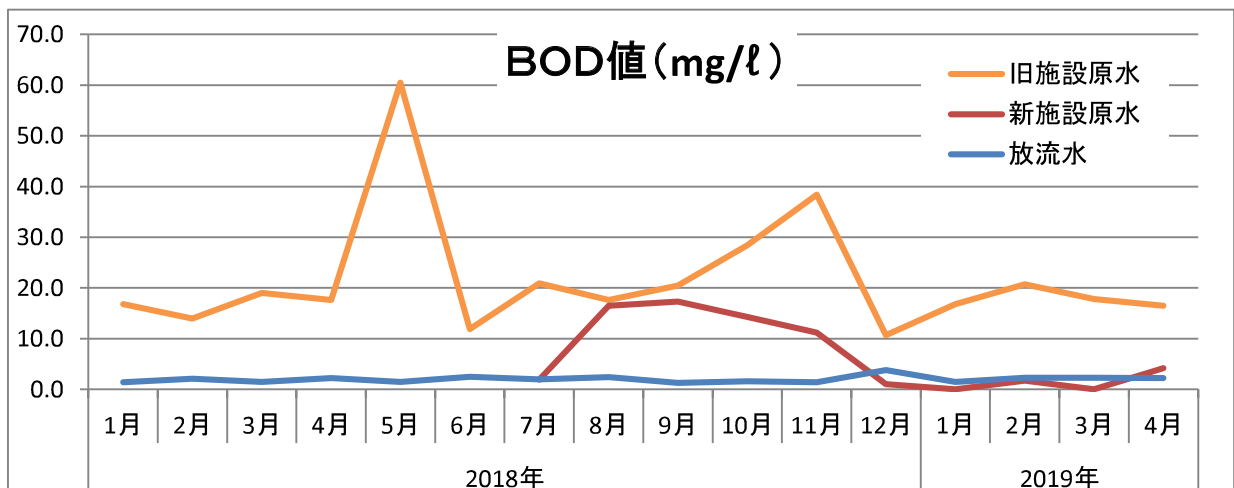
平成 30 年 2 月 2 日	施設変更許可
平成 30 年 2 月 7 日	施設使用前検査 (第 1 回工)
平成 30 年 6 月 25 日	〃 (第 2 回工)
平成 30 年 12 月 18 日	施設軽微変更等届出
平成 31 年 2 月 18 日	施設使用前検査 (第 3 回工)

2. 最終処分場の維持管理状況について

最終処分場の運営にあたっては、従来から実施している搬入物の展開検査に加え次の取り組みを実施しました。

- ・搬入物の簡易溶出試験の再実施と顧客との意見交換。
- ・埋立地内部への送気継続。
- ・埋立地底部の滞水対策。

最終処分場における原水等の BOD 値は次のとおりです。(月次報告のとおり。)



旧施設の原水の BOD 値が一部で高い値を示しているのは、旧施設側法面について業務上の段切りを施したことで、雨水が一時的に流入したことによる影響だと思われます。その部分を除けば、原水の BOD 値については上述の取り組みにより比較的安定して推移しています。

講じた対策のなかでも、埋立地底部の滞水を低減させる取り組みがある一定の効果をもたらしていると考えています。これまで、水処理施設等の稼働状況は一年を通して一定であったため、大雨

時などの際は相当量の浸透水が処分場内で滞水し、多量の浸出水が生じていました。現在では、天候の事前情報と状況により、水処理施設等の稼働を変動させて、貯留槽における受水能力を高めるなどの運用を図ることで、処分場の底部への滞水を極力なくすよう努めています。その結果、処分場内に滞水して生じた浸出水量が減り、原水の値が低減していると思われま。ただ、施設全体を遮水シートで遮水している構造上、内部滞水を完全になくすことは困難なことから、今後も、日常における施設の維持管理を徹底し各施設の運用について適正に対処してまいります。

3. 最終処分場に係る主な対応協議等について

維持管理積立金について、平成30年度分より廃止期間を当初の3年間から1年延長し、積立額を増額見直しました。

また、予てより意見交換を行ってきた公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団をはじめとした専門家等と次のような協議をはじめとしています。

- ・公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団（以降「財団」。）等による「安全で長寿命化に資する安定型処分場の試験・設計方法に関する研究」への各種実験協力と意見交換。
- ・当社と長野県短期大学および財団との共同研究「産業廃棄物最終処分場の浸透水の化学的変化に関する研究」を実施。
- ・財団による「安定型処分場内ボーリング調査」に実験協力。

このたび当社では長野県短期大学および財団との共同研究「産業廃棄物最終処分場の浸透水の化学的変化に関する研究」における共著論文（'Behavior of Water in Landfills Containing Long Plastics'）の執筆にも加わり、最終処分場の保有水等の実態を解明するべく研究をはじめとしています。産業廃棄物の最終処分事業に携わる事業者として、今後より一層知見を高め、施設の安全な運営に努めます。加えて、事業を営む現在の段階から将来の処分場の早期安定化に向けた手立てを講じてまいります。

以上

令和元年 8 月 8 日

仙台市環境局
廃棄物事業部事業ごみ減量課 御中

大青工業株式会社

最終処分場の維持管理状況等報告（補足）

過去 6 年間の新旧施設原水の BOD の平均値と最大値を次に示します。

○ 旧施設

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
最大月	4 月	7 月	9 月	10 月	10 月	5 月
BOD 最大値	44.2	76.3	121.0	50.2	37.2	60.5
BOD 平均値	27.8	47.1	50.8	31.5	22.3	23.0

(単位 : mg/l)

○ 新施設

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
最大月	—	—	—	—	—	9 月
BOD 最大値	—	—	—	—	—	17.3
BOD 平均値	—	—	—	—	—	8.6

(単位 : mg/l)

埋立地底部の滞水を低減させるための具体的な取り組みとして、大雨などの情報を天気予報で得た際には、事前に手動でポンプを稼働させています。浸出水貯留槽の受水能力を高めることにより、雨水が施設内で滞水するのを最小に留める努力をしています。

また、新規顧客の産業廃棄物を受入れる際は、現地を視察し、搬入する廃棄物の確認を行っています。加えて、全顧客の搬入物については、年一回、臨時に抜取り簡易溶出試験を実施し、顧客との情報交換を行っております。これらの取り組みを今後も継続し、業務にあたり安定型産業廃棄物以外の廃棄物の付着又は混入を防止してまいります。

以上

仙台市環境局

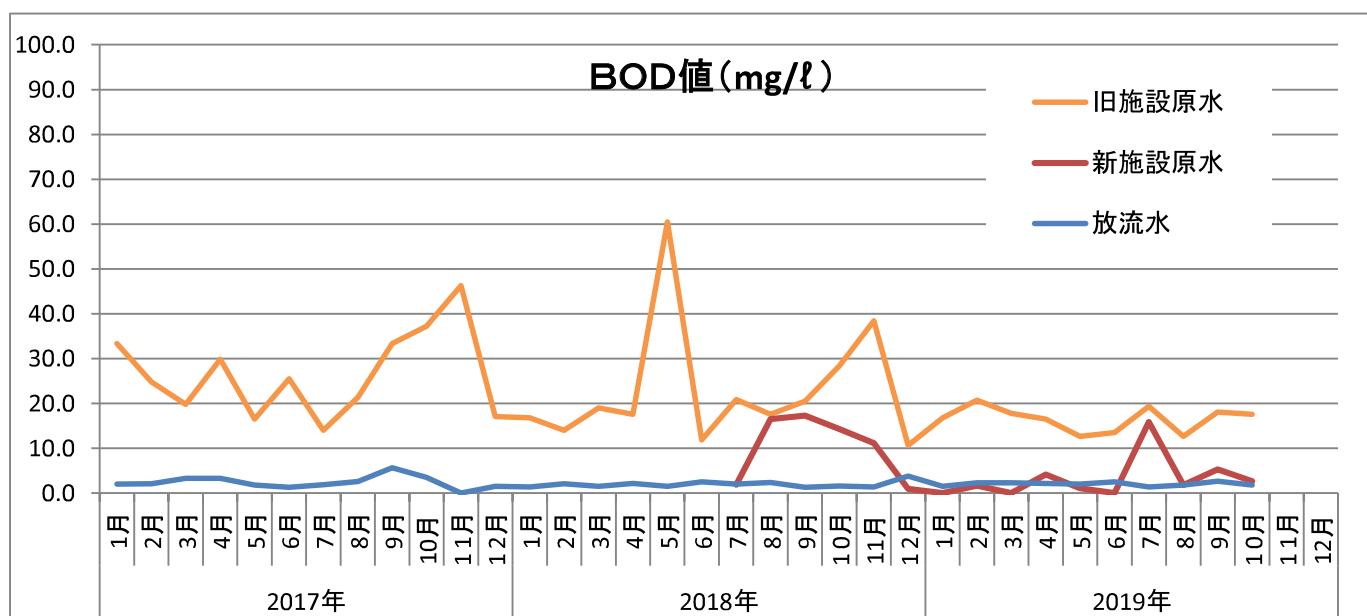
廃棄物事業部事業ごみ減量課 御中

大青工業株式会社

最終処分場の維持管理状況等報告（2019 年 10 月）

2017 年以降の新旧施設における原水及び放流水の BOD 値（mg/l）を次に示します。

測定月		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
2017 年	旧施設原水	33.4	24.8	19.8	29.9	16.5	25.5	14.0	21.4	33.4	37.2	46.3	17.1
	新施設原水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	放流水	2.0	2.1	3.3	3.3	1.8	1.3	1.9	2.6	5.7	3.5	0.0	1.5
2018 年	旧施設原水	16.8	14.0	19.0	17.6	60.5	11.9	20.9	17.6	20.5	28.4	38.4	10.7
	新施設原水	—	—	—	—	—	—	1.9	16.5	17.3	14.3	11.2	1.0
	放流水	1.4	2.1	1.5	2.2	1.5	2.5	2.0	2.4	1.3	1.6	1.4	3.8
2019 年	旧施設原水	16.8	20.7	17.8	16.5	12.7	13.5	19.4	12.7	18.1	17.6		
	新施設原水	0.0	1.7	0.0	4.2	1.1	0.0	15.9	1.8	5.3	2.7		
	放流水	1.5	2.3	2.3	2.2	2.0	2.5	1.4	1.8	2.7	1.8		



今回の拡張計画における浸出水および雨水等の管理について

拡張部の流末に集水ピットを設けることで、既存施設同様、集水管出口部分にて原水を個別に管理できる計画としています。また、浸出水調整槽を新たに設けると併せて、水処理施設の能力を現在の 100 m³/日から最大 500 m³/日に増強させることにより、異常降雨時以外は、雨水等を施設内に貯留させない設計としています。これらにより、水質の管理体制を機能させて長期滞水による水質の悪化を防止してまいります。

以上